

バランスシートでみる北上市の財政

(平成28年3月末日現在)

バランスシートとは?

貸借対照表ともいい、北上市が市民サービスを提供するために保有している財産(資産)と、その資産をどのような財源(負債・純資産)でまかなってきたかをまとめて対照表示した一覧表です。

【公共資産の内訳】

○道路・公園・市営住宅など
771億円



九年橋

○小中学校・幼稚園など
402億円



上野中学校

○市役所庁舎・交流センターなど
124億円



市役所本庁舎

○観光施設・農業者施設など
42億円



展勝地レストハウス

○ごみ処理施設・保健施設など
14億円



清掃事業所

○消防屯所・防災施設など
10億円



防災備蓄倉庫

○保育園など
9億円



大通り保育園

○その他
(現在市民サービス提供のために使用していない財産など)
21億円

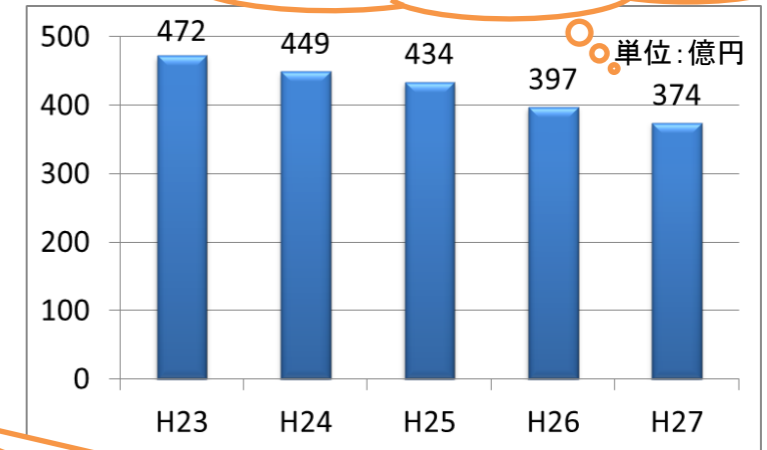
市民サービスを提供するために市が保有する財産

財産を取得するために投入した財源

<p>資産の部 1,600億円</p> <p>公共資産 (インフラ・公共施設など) 1,393億円</p> <p>投資等 (基金・出資金など) 144億円</p> <p>流動資産 (現金預金など) 63億円</p>	<p>負債の部 413億円</p> <p>地方債(借金) 374億円</p> <p>その他(退職手当引当金など) 39億円</p> <p>純資産の部 1,187億円</p> <p>・国や県から受けた補助金など 191億円</p> <p>・財産を取得するために投入した一般財源(税金・地方交付税など) 721億円</p> <p>・資産評価差額 476億円</p> <p>・その他一般財源 △201億円</p>
---	---

財産を取得するために投入した財源のうち、将来世代が負担する部分

地方債残高は年々減少しています。



財産を取得するために投入した財源のうち、過去世代または現世代が負担した部分

その他一般財源

その他一般財源のマイナスは、翌年度以降の歳入のうち201億円分は使途がすでに拘束されていることを表しています。

バランスシートからわかること

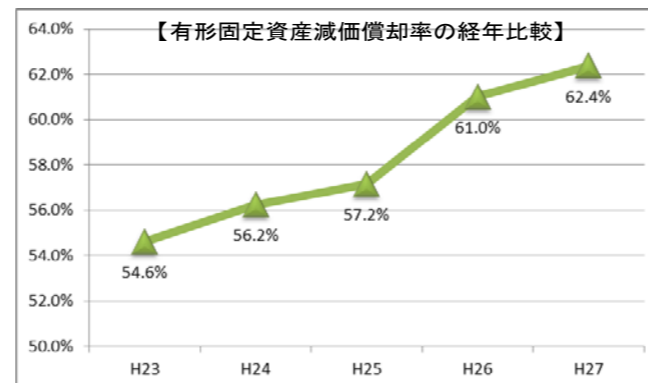
○北上市が保有する公共資産のうち、道路・公園・市営住宅などの土木分野と小中学校・幼稚園などの教育分野の2分野で、公共資産全体の8割以上を占めており、多くの税金や補助金などがこの分野に投入されていることが分かります。

○地方債(借金)の額は、近年の財政健全化への取組みにより年々減少しています。このことは、将来世代への負担が徐々に減少していることを意味しています。

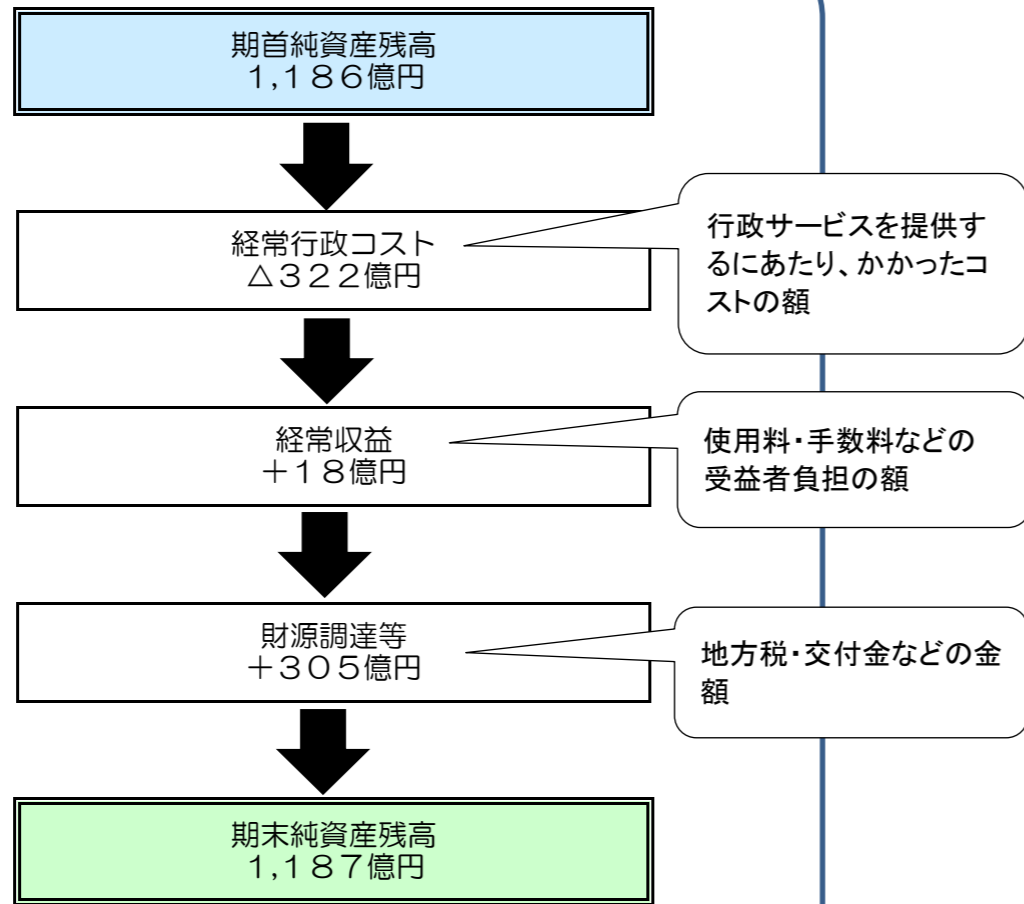
○その一方で、財政健全化への取組みにより公共事業への投資を抑制してきた結果、有形固定資産減価償却率は年々悪化しています。このことは、北上市が保有する公共資産の老朽化が進行していることを示すものであり、インフラ資産マネジメントを積極的に推進していく必要があります。

有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率)

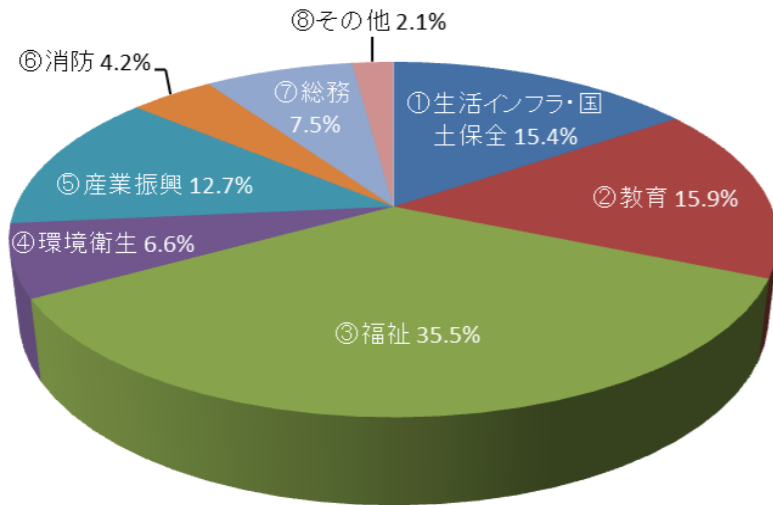
市がこれまで整備してきたインフラや公共施設などの老朽化が年々進行しています。



1年間の行政コスト・純資産変動の状況



【行政分野別純経常行政コストの割合】



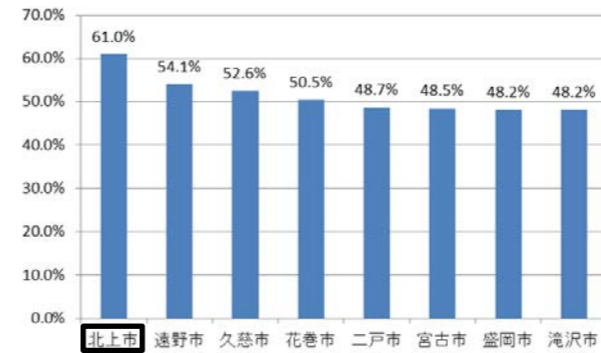
行政コストの主な内訳をみることで、北上市がソフト面においてどのような分野に注力しているのかが分かります。平成27年度における主な行政コストは、「福祉」分野における扶助費等の社会保障給付や「教育」分野における物件費などであり、高齢者福祉や子育て支援、学校教育の充実などの事業を重点的に進めていることが分かります。

県内他都市との比較

財務書類からわかる数値や比率をほかの市町村と比較することにより、北上市の財政状況がどの程度の水準にあるかどうかを分析することができます。

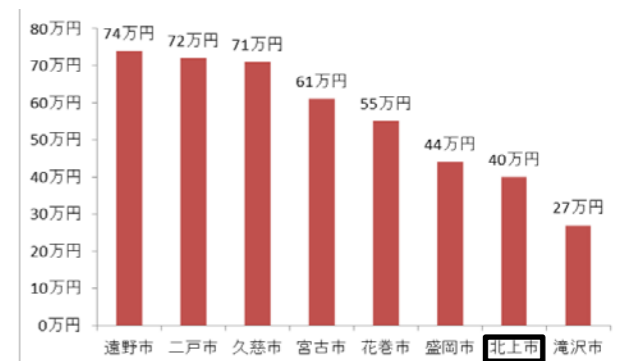
※ ここでは、平成26年度財務書類を公開している都市間の比較を行っています。

【有形固定資産減価償却率の県内都市間比較(H26)】



おもて面で取り上げた有形固定資産減価償却率(平成26年度末時点)について、岩手県内の他都市と比較すると、他都市に比べても北上市の公共施設などの老朽化が進行していることが分かります。

【住民一人当たり地方債残高の都市間比較(H26)】



地方債の残高を人口で割ると、住民一人当たりの地方債残高が分かります。平成26年度末の住民一人当たり地方債残高を比較すると、将来世代への負担は岩手県内都市では少ない方に位置していることが分かります。

用語解説

○有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率)

建物や機械器具などの資産(償却資産といいます)は、取得した瞬間から老朽化が始まっています。この老朽化の進み具合を数字で示したものが有形固定資産減価償却率です。資産の種類ごとに決められた、利用に耐えうるとされる年数(耐用年数といいます)に比べて、どの程度経過しているかが分かります。この指標の平均的な値は35~50%とされています。

○資産評価差額

北上市においては固定資産台帳が整備されており、それぞれの資産の再調達価額(その資産を再び調達するために必要となる額)で貸借対照表の資産の部に計上されています。ほとんどの場合、取得価額(その資産を取得するために実際に費やした額)と開きがあるため、再調達価額と取得価額との差額が資産評価差額に計上されています。

○その他一般財源

本来、翌年度以降自由に使える財源のことをいいますが、この値は北上市のみではなく多くの自治体でマイナスになっています。これは、財産を取得するためにはない借金(赤字地方債)などが存在し、それらの返済に対する備えが蓄えられていないためです。

ただし、上記の借金のうち臨時財政対策債は、本来地方交付税として国から支払われる額について、国の財政状況が厳しいことから臨時的に市が借金しているものであり、返済の財源は翌年度以降の地方交付税で措置されることになっています。

さらに詳細な情報をお知りになりたい場合は、「平成27年度北上市の財政状況」をご覧ください。
(北上市役所ホームページ: <http://www.city.kitakami.iwate.jp/docs/2017030300015/>)

問い合わせ : 財政課財政係 ☎0197-72-8249(直通) E-mail : zaisei@city.kitakami.iwate.jp